

25 子育てしやすいまちづくりの推進

健康福祉局子供未来応援課・安心保育推進課・こども家庭課

提案の要旨

若い世代が安心して子どもを産み育て、未来を創る人材を育てるまちづくりを継続して推進できるように、こども・子育て支援の安定的な財源確保をお願いします。

現状及び課題

呉市は、長引く人口減少に歯止めをかけるため、子育て環境の充実により、子育て世帯に当市を選んでもらう施策に取り組んでいます。

当市においても、社会環境の変化により、妊娠・出産・子育てに対する不安や負担が増大するなど多くの課題が見受けられます。

子どもを持つ多くの家庭が抱える課題の一つ目として挙げられるのが、経済的な負担であり、若い世代の子どもを持ちたい希望を実現しにくい要因となっています。

当市は、こども医療費助成の拡充や第3子以降の保育料無償化、保育料を長期間据え置いているほか、今年度は、こども医療費助成制度の対象を高校3年生（18歳になる年度末）まで拡充するとともに、所得制限を撤廃することで、全てのこどもの健全な育成に力を入れています。

二つ目の課題は、仕事と子育ての両立の困難さです。

特に保育サービスの充実やそれを支える保育人材の確保はとても重要な課題となっています。人材確保が厳しい中、保育業務のICT化や保育補助者雇用等による保育現場の負担軽減、保育士の宿舍借り上げ家賃助成など、国の制度を活用した取組を行うとともに、市の独自施策として、若手保育士等の継続就労や離職防止のための奨励金の助成、高校生を対象とした職場体験事業など、職業としての魅力ややりがいを高める取組を進めています。

このほか当市では、令和6年度からの設置が努力義務となっている「こども家庭センター」を先行して今年度から設置し、妊娠期からの早期対応に努めています。

取組状況等

令和2年8月	子育て手続ナビの導入
令和3年4月	子育て支援手続きのWeb申請化（放課後児童会、保育所等の入所、児童手当、乳幼児等医療助成の諸手続き）
令和4年4月	保育体制強化事業（保育支援者）の実施 保育士等就労継続奨励金補助の実施 高校生保育体験事業の実施
令和4年10月	支援対象児童見守り強化事業の実施
令和5年4月	放課後児童会・子供教室一体型モデル事業の実施 保育士宿舍借り上げ支援事業の実施
令和5年10月	こども医療費助成の対象等の拡充（予定）

提案の内容

○ 子育て環境の改善に向けた支援・予算の確保

子育て世帯の多くは、養育費などの多額の子育て費用の負担や仕事と子育ての両立の困難さなど、子育てに対する将来的な不安を抱えています。

国に対し児童手当の拡充やこども医療費助成制度の創設、保育料の軽減などの経済的支援や子育て環境整備の拡充の働きかけをお願いします。また、県においても自治体ごとの財政力による地域間格差が生じることがなく将来にわたって持続的な制度となるよう、財政支援をお願いします。

【参考：呉市の状況】

(1) 子育て世帯の経済的負担軽減

こども医療費助成制度の拡充

現行制度		令和5年10月～	
通院	小学校6年生まで	通院	高校3年生（18歳になる年度末）まで
入院	中学校3年生まで	入院	
所得制限	あり	所得制限	なし

※一部負担金：500円（負担限度 通院4日／月，入院14日／月）

※広島県制度：入通院ともに未就学児まで，所得制限・一部負担金あり

(2) 保育士の人材確保等事業

保育士不足は喫緊の課題であり，保育士配置基準を満たしてはいるものの，障害児の受入れなどの実施が難しい状況が発生しています。

また，保育士は，「休暇が取れない」「保護者等からのクレーム」など負担が大きいことや研修さえ受講できない状況で保育を行っています。

このため当市においては，国の補助事業のほかに市独自の保育士の「人材確保策」・「処遇改善策」・「負担軽減策」を実施しています。

人材確保策

・・・高校生保育体験事業，潜在保育士再就職支援事業など

処遇改善策

・・・民間保育所等運営費補助事業，保育士等就労継続奨励金補助事業など

負担軽減策

・・・産休等代替職員費補助，障害児保育促進事業



高校生保育体験事業



潜在保育士再就職支援事業